加古川シネマクラブニュース Vol.60　2012.05.08

5 月例会は「木洩れ日の家で」

定例総会の報告

4 月 26 日に総会を開催し、1 年間を総括し、次の 1 年の計画を確認しました。心配していた運営面では、会員の皆さんやこの会のことを支援していただいている皆様のおかげで、会計の悪化に歯止めがかかったようです。また、活動面では、全体に地味な活動計画ですが、これまでにも増して良い映画を観る機会を増やしていきたいと思います。

例会のお知らせ

■名称／第 60 回例会『木洩れ日の家で』

■日時／5 月 23 日(水)　① PM 2:00～、② PM 4:20～、③ PM 6:40～

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩 10 分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で 4 箇月分の会費(2000 円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／木洩れ日の家で

■監督／ドロタ・ケンジェジャフスカ

■出演／ダヌタ・シャフラルスカ、クシシュトフ・グロビシュ、パトリツィヤ・シェフチク、カミル・ビタウ、ロベルト・トマシェフスキ、ヴィトルト・カチャノフスキ、マウゴジャタ・ロジニャトフスカ、アグニェシュカ・ポトシャドリク

■データ／2007 年、ポーランド、1 時間 44 分、ドラマ／ヒューマン

■解説／ワルシャワ郊外の緑に囲まれた木造の古い屋敷、その家で愛犬フィラデルフィアと静かに暮らす一人の女性アニェラ、91 歳。年老いてなお美しく、そして誇り高く生きる彼女は、戦前に両親が建てたその家で生まれ、成長し、恋をし、夫と暮らし、一人息子ヴィトゥシュを育ててきた。夫はとうに他界し、息子も結婚して家を出ていた。共産主義時代に政府から強制された間借人もようやく出ていき、アニェラは今、さほど長くはない自らの余生と彼女が愛する家をどうするか考えていた。その家で彼女が体験した忘れることのできない甘美な思い出の数々と、いろいろなことが思い通りにはいかずに歯がゆい現実、息子の家族に同居を拒否された寂しさに、健康への不安･･･。やがて彼女が下す人生最後の決断。彼女がただひとつだけ遺そうとしたものとは･･･。鮮烈なまでに美しいモノクロームの映像と、世界現役最高齢の名女優が魅せる奇跡の演技で詩的に描き出す、ある女性の人生最後の日々。数々の名作を生み、数多くの名匠を世に送り出してきたポーランド映画界からまた 1 本、深い感動を呼ぶ珠玉の名作が誕生しました。(ホームページ解説から)

2012 年度定例総会の要旨

4 月 26 日(木)午後 7 時に、2012 年度の加古川シネマクラブ定例総会を開催しました。承認された報告と議決の内容は、総会議案のとおりです。ここでは、その要旨を伝えます。

まず、2011 年度の活動報告と決算報告ですが、10 周年記念事業特別例会を含む例会は、ほぼ計画どおりの内容と規模でした。7 月の特別例会で塩屋俊監督をお招きすることもできました。また、3 月の特別例会で約 10 万円の収入があり、加えて関係者のカンパや援助があったため、会費による年間収支は実質約 12 万円の赤字のところ、昨年度までの実質赤字 2 万円も含め完

済し、実質でプラスマイナスゼロの状況です。なお、現在の繰越金は会費の前納とほぼ同額であるためです。

会費による会の運営を安定して行うためには、会員を最低でも 180 人、できれば 200 人以上にならなければ難しいことには変わりありません。

次に、新年度の役員についてですが、設立当初から代表委員を務めてきた由井章さんが運営委員に退き、設立当時からのメンバーである津村晴子さんが代表委員の片翼を担うことになりました。

2012 年度の活動計画と予算ですが、10 周年記念事業も終え、年 6 回の例会を中心に考えています。特に 7 月の特別例会**『一枚のハガキ』**に重点を置いています。会員の皆さんだけでなく、一般の方にも有料で鑑賞いただける機会としました。また、7 月に明石で開催される**全国映連**の**映画大学**に地元団体として協力します。この事業については、皆さんに案内を送付しますので奮ってご参加くださいますようご案内いたします。

予算については、これ以上は節約できないほどの極めて緊縮としていた昨年度とほぼ同規模にしています。

今後も引き続き、口コミやチラシの配布や会員の勧誘、特別例会への参加呼びかけ、補助金事業探し、その他、地域の映画関係事業への協力など、会員の皆さんご協力お願いいたします。

2012 年全国映連総会参加報告

4 月 7 日、全国映連総会と全国映連賞贈呈式があり、東京に行ってきました。

総会では、各地様々な取り組みが紹介され、厳しい状況の中、みんな頑張っているなぁと思いました。とりわけ、例会作品を大切に中心にすることについて、改めてその大切さを思いました。映連賞では、何年ぶりかで役者さんの参加がありませんでしたが、**新藤次郎プロデューサー**、**鎌仲ひとみ監督**、**砂田麻美監督**たちとの楽しい交流が出来ました。

総会の翌日は東宝スタジオ（ゴジラと七人の侍と満開の桜が迎えてくれました）で、**山田洋次監督**の新作**『東京家族』**の撮影を見学しました。妻夫木聡と吉行和子の母子がご飯を食べるシーンでした。狭いところでの撮影だったのでモニターでの見学となってしまいました。それでも、よーい、テスト、本番テスト、本番のかけ声や、監督が何か注文するとスタッフに動きが出るなど、撮影独特の緊張感は心地よく感じられました。役者・スタッフが昼食休憩のスキに、先ほどまで撮影されていたセットに入って記念写真を撮ってきました。

夜は、**高畑勲監督**と上野で会い、豆腐料理をご馳走になりました。竹取物語を作っているそうですが、来年夏は宮崎作品との競作になるそうです。新しい試みがうまくいけばいいけど、どうなるんでしょうかと、いつもの高畑節が健在でした。（健）

運営状況

実質会計がプラスマイナスゼロの状態に戻りました。カンパをいただいた方、支払いの値引きを行っていただいた方、何かとご協力ご支援いただいている方、会員の皆さん･･･。皆さんのおかげで、何とかなっています。有難さがよくわかります。

少しだけ改善されましたが、今の状況は、まだまだ良い状態とは言えません。一部の方に負担が偏らないように、会員の増加や行事の協力について今後とも、ご協力をお願いいたします。　　（事務委員､宮本）

前回例会の報告

3 月 23 日の例会では、よくある家族の日常の心情を描いたふつうの家族の**『歩いても 歩いても』（是枝裕和監督）**を鑑賞しました。参加会員 116 人と少し少なかったのですが、ふだんより感想も多く寄せられていました。多くの人が共感できる良い作品でした。

アンケートの中では､「家族や幸福について考えさせられた」というものが多く、中には、「田舎の母と重なった」というものもありました。

余計なことですが、先日、この映画と同じ**阿部寛**が主演のコメディー映画**『テルマエ･ロマエ』**を観て､「アベチャンも幅広く頑張っているなぁ」と感心してきました。

雑文

昨年の今頃は、東日本大震災の被災者や被害のことを思い量り心配する日々でした。今年は、ふと気づくと時間とともに少し怠惰で我儘な平凡な気持ちになりかけている自分がいます。読書や旅行、そして映画でも観て心を洗濯してみようと思います。

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200～300 字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ　〒675-0101
加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方
TEL 090-9283-0435　FAX 078-935-8528
E-MAIL cinemaclub@nifty.com
http://homepage3.nifty.com/cinemaclub

会員数 173 人(3 月 23 日現在)